

八川幼稚園にJR西日本から感謝状

JR木次線の沿線にある八川幼稚園では、トロッコ列車が通過する際、園児達が列車に向かって手を振ったり、トロッコ列車の御輿を作って披露するなど、お客さんとの出会いを楽しみにし、また乗客の皆さんも旅の思い出として大変喜んで帰られます。

12月4日には、JR西日本木次鉄道部の内藤安夫部長が幼稚園を訪れ「園児の皆さんがにっこり微笑んで手を振ってくれて、お客さんは大変喜んで下さいます。夢と希望を与えてくれてありがとう」と感謝状が贈られました。トロッコ列車の運行は今年10年目を迎え、今シーズンの利用客は過去最高の2万人を超えました。今後も乗客と園児の皆さんとの心温まるふれあいが続いていくことでしょう。



思いやりの心・かけがえのない命を大切に

第五十九回人権週間

毎年十二月四日から十日までの一週間は、人権意識の普及と高揚を呼びかける「人権週間」と定められています。今年「育てよう一人一人の人権意識」を統一標語に、全国各地で様々な取り組みが行われました。

町内でも松江地方法務局雲南支局や町の人権擁護委員の方々と協力して、各種の啓発活動を行いました。

十二月五日には広報車での巡回広報、六日には、一日人権擁護委員として、外国語指導助手のジョアンヌ・マツカーシーさんを委嘱し、事業所への人権啓発訪問や町内のスーパーでの街頭啓発を行いました。

「女性や子どもの人権を守ろう」、「インターネットを悪用した人権侵害は止めよう」など強調事項が記されたパンフレットなどを配り、人権問



▲街頭啓発の様子

なこと」と話し、人権意識の高揚を熱心に呼びかけていました。

私たちも身近な事から人権を考え、差別や偏見のない明るい豊かな社会をつくっていきましょう。

思いやりの心を大切に 布勢小学校で「人権の樹」 ハナミズキを植樹



▲児童代表によるハナミズキの植樹

町内の小学校では、平成二年から、やさしい思いやりの心を育んでもらおうとマリーゴールドやサルビアなど自分たちの手で育てる「人権の花」運動に取り組んでいます。

この運動に三年間取り組んだ布勢小学校で十一月二十日、雲南人権擁護委員協議会の主催で「人権の樹」記念植樹が行われました。

当日は、丸山松江地方法務局雲南支局長、奥出雲町人権擁護委員の皆さん、布勢小学校PTA会長を迎え、全校児童が参加して記念植樹式の後、校庭の一角に友好のシン

ボルとして「ハナミズキ」の樹と標柱が建てられました。

標柱の人権標語には、六年生の吉川智恵子さんの「ひとびとのステキな花を咲かせよう」が選ばれました。

また、この日は、人権マスコットの「人KEN」もある君・あゆみちゃんとの交流やパネルシアターを見たり、人権しおり作りを体験したりしました。

児童たちは、この取り組みを通して、命や友達を大切にする心、思いやりの心をより深め、人権を尊重することの大切さを学んでいました。